

---

# 川神と闇と

シゲミン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

川神と闇と

### 【Zコード】

N6190N

### 【作者名】

シゲミン

### 【あらすじ】

川神にもし闇が来たなら。。

妄想その2です。

(前書き)

妄想その2です。  
感想で希望があれば続編も考えます。  
ゼロの使い魔の妄想その1もよろしくお願いします。

川神市には通称“変態の橋”と呼ばれる端が存在する。一応ことわっておくがあくまで通称であり、製作者がそう名づけたわけではない。どういかその通称の元になつている人物たちは、その製作者にとても失礼なことをしている自覚があるのだろうか。・・・あるわけがなかつた。何せ変態なのだから。

そんな変態の橋であるが、そこには時たま川神百代への挑戦者が現れることでも有名である。まあ、中には1人で決闘を申し込む奴もいるが、大抵は百代の強さを舐めてかかつたモブキャラたちが集団で襲い掛かつて彼女に人間テトリスのピースにされるのが通例なのが・・・。

今日は様子が違つていた。当の百代が来る前だというのに、既に一見して街のゴロツキとわかる連中が橋の隅に積み上がつていて。そして、その上に。一人の青年が、座つていた。歳は20前後といつたところだろうか。長い銀の髪を後ろで束ね、モデルのように整つた顔の左側には刺青がある。上着のファスナーは大きく下まで開かれ、鍛え抜かれた腹筋を惜しげもなくさらしていた。

積み上げられた人間の頂上で、キヨロキヨロと辺りを見回していた青年は、突然何かを見つけたように顔を跳ね上げ、一瞬で消え去つた。そして、次の瞬間。

音もなく。川神百代の前に下り去つた。

「ねえねえ。君が、川神百代？」

満面の笑みで問いかけてくる青年に、百代は言葉に詰まる。世界最強とまで言われている彼女が一瞬うろたえるほどに、彼の笑顔は、不気味だつた。

「ああ。お前は？私への挑戦者か？」

「うん。そうだよー。」

そう言つて青年は距離をとり、両手をすつと挙げ構えをとる。

「一影九拳が一人、人越拳神一番弟子、叶翔」

(後書き)

いかがでしたでしょうか?  
感想よろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6190z/>

---

川神と闇と

2011年12月20日19時51分発行